



尊敬する加瀬英明先生が、新しい歴史教科書に寄稿された「日本人の美意識」という一文があります。

すこし引用してみます。

【美意識と日本的価値観】

日本人は世界の中で、美意識が突出している。

私たちは中国大陸や、ヨーロッパ大陸とちがって、善悪よりも、美を尺度として生きてきた。

清潔さを重んじて、穢れ(けがれ)を嫌ってきたのも、美意識が働いている。

日本人にとって、善悪は理屈によらずに、感性から発する。

このような尺度を用いているのは、世界の中で日本人だけである。

*

美意識が人々の生活と、行動様式を律してきた。

武士道は美意識である。

江戸時代から治安がきわめてよかったのも、人々の美意識が高かったためだった。

*

日本語では体格が貧弱であっても、その人の精神や、行動のありようによって、男らしいという。

西洋諸語で男らしいといえは、見た目をいう。

西洋の美が外見的なものであるのに対して、内面の美しさを問うているのと、対照的である。

女のなまめかしさや、色気も、視覚的な美しさとともに、内面から発するものだった。

私たちは、外見よりも内面を重んじる。

*

人々は美しさを競った。

日本では、永遠の美よりも、生命と同じようにつかの間の美を重んじた。

*

日本は恥の文化だといわれるが、恥も美意識から発している。

このような美意識は、心が形となって現れたものだった。

いなせ、きおい、いきみ(意気味)といった言葉は、心と一体となっていた。

*

日本の工芸品の素材には、金銀や、貴石などではなく、無価値のものが用いられている。

工芸品を壊したら、一銭にもならないようなものが、ほとんどだ。

侘び、さび、にも通じている。

*

神道は、なによりも清々しさを尊んでいる。

自然との共生を求める信仰である。

いま、エコロジーが世界を律する、新しいスーパー・レリジョン(超宗教)となっている。

神道は、エコロジーの教えである。

神道は、自然と同じように、人間界も包容する。

そのために、神道が海外において評価されるようになってきている。

*

近代世界に、日本ほど大きな文化的影響を与えた国はない。

隣邦の中国もこのところ大国に列するようになったが、古代に火薬、紙、機械時計、羅針盤などを先駆けて発明したものの、近代にはいつてから世界文化に貢献したものは何もない。

~~~~~

引用は以上です。

支那に関して言えば、世界文化に貢献したものが何もなければ、逆に世界の破壊と、自国民への殺戮の歴史しかないといえるのではないのでしょうか。

日本文化は、心の文化です。  
なにより心を大切にします。

加瀬先生も書いておられますが、外見上の美しさをいくら飾って見たところで、性格が悪ければ、つきあいきれない。

男性が、いくら色男で筋骨隆々で外見が逞しくても、精神が軟弱なら、そんな奴は男じゃない。

女性がいくらナイスバディで、美人であったとしても、人柄が悪ければ、日本人の感覚としては、やっぱりいけずかない。

心を鍛えること。

その心を鍛えるために体を鍛えるというのが、日本古来の考え方です。

世界中がいま、日本のそうした美意識を、すごい！と受け入れている時代にあって、なぜか昨今の日本だけが、逆に日本文化や日本の美意識を否定している。

これはおかしい風潮です。

私たちは、日本人なのです。

日本人には、日本人としての矜持がある。

日本人よ、勁く(つよく)なれ！

~~~~~



【加瀬英明】徳の国富論

[桜H22/3/25]

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=AsOM5KvG8PE

近著『徳の国富論 - 資源小国日本の力』をご紹介いただきながら、長い歴史の中で日本人が育んできた「徳」こそが、時代を超えてにほんの支えになる精神そのものであるという真理についてお話させていただきます。